

養護採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点		
1	(ア)	心身			各 2 × 9	18	
	(イ)	保持増進					
	(ウ)	管理運営体制					
	(エ)	健康相談					
	(オ)	救急処置					
	(カ)	保健室					
	(キ)	観察					
	(ク)	健康上					
	(ケ)	保護者					
2	心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること。		順序は問わない。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 3	15		
	毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。						
	毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。						
3	1	(a)	全体		各 2 × 5	27	
		(b)	指導				
		(c)	矯正				
		(d)	はん状歯				
		(e)	開口障害				
	2	(1)	(ア)	1			各 2 × 7
			(イ)	0			
			(ウ)	0			
			(エ)	25			
			(オ)	2			
			(カ)	3			
			(キ)	1			
	(2)	GO			3		

養護採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
4	(ア) 脳幹		各 3 × 5	
	(イ) 延髄			
	(ウ) 下垂体	脳下垂体 もよい。		
	(エ) 脳梁			
	(オ) 小脳			
	2	脳脊髄液減少症	脳脊髄液漏出症、低髄液圧症候群 もよい。	4
5	1	死戦期呼吸	あえぎ呼吸 もよい。	4
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・胸骨の下半分を圧迫する。 ・両肘を伸ばし、脊柱に向かって垂直に体重をかける。 ・約5cmの深さで圧迫する。 ・100～120回/分の速さで圧迫する。 ・手を胸骨から離さずに、速やかに力を緩めて元の高さに戻す。 ・絶え間なく行う。 ・胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせで行う。 	3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 3
6	1	(ア) 18℃以上、28℃以下		各 3 × 5
		(イ) 相対湿度		
		(ウ) 6 ppm 以下		
		(エ) 二酸化窒素		
		(オ) 100 匹 /m ²		
	2	感染症又は食中毒の発生のおそれがあり、また、発生したとき。	順序は問わない。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 3
		風水害等により環境が不潔になり又は汚染され、感染症の発生のおそれがあるとき。		
		新築、改築、改修等及び机、いす、コンピュータ等新たな学校用備品の搬入等により揮発性有機化合物の発生のおそれがあるとき。		
	3	学校環境衛生基準では、教室及びそれに準ずる場所の照度の下限値は300ルクスとされているが、250ルクスの場所が1か所あり、基準を満たしていないから。	順序は問わない。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 2
		学校環境衛生基準では、教室及び黒板のそれぞれの最大照度と最小照度の比は、10：1を超えないことが望ましいとされているが、教室の最大照度が3000ルクス、最小照度が250ルクスであることから、比が10：1を超えているため、望ましい状態とは言えないから。		
7	1	保健調査、健康診断、健康観察、健康相談等により、疾病に罹患している児童生徒等の早期受診や早期の回復、治療への支援を行うこと。	順序は問わない。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2
	運動や授業などへの参加の制限を最小限に止め、可能な限り教育活動に参加できるよう配慮することにより、安心して学校生活を送ることができるよう支援すること。			

養護採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
7	<p>当該児童等及びその保護者が、事前に医師から、次の点に関して書面で指示を受けていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等においてやむを得ずブコラム®を使用する必要性が認められる児童等であること ・ブコラム®の使用の際の留意事項 	<p>順序は問わない。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。</p>	<p>各 4 × 4</p>
	<p>当該児童等及びその保護者が、学校等に対して、やむを得ない場合には当該児童等にブコラム®を使用することについて、具体的に依頼（医師から受けたブコラム®の使用の際の留意事項に関する書面を渡して説明しておくこと等を含む）していること。</p>		
	<p>当該児童等を担当する教職員等が、次の点に留意してブコラム®を使用すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該児童等がやむを得ずブコラム®を使用することが認められる児童等本人であることを改めて確認すること ・ブコラム®の使用の際の留意事項に関する書面の記載事項を遵守すること 		
	<p>当該児童等の保護者又は教職員等は、ブコラム®を使用した後、当該児童等を必ず医療機関で受診させること。</p>		
8	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級内にすでに被害を受けている生徒がいるかもしれないことを意識し、授業の中で、生徒が二次被害を受けることのないよう配慮すること。 ・過去に性暴力に遭った生徒がいることを把握している場合、当該生徒に対し、授業に参加するかどうかを生徒自身に選択させること。 ・学校側が把握していなくても、性暴力の被害に遭ったもしくは遭っている生徒がいる可能性を十分に考慮し、気分が悪くなった場合は授業中にいつでも退席してよいと学級全体に伝えること、また、配慮が必要と思われる生徒については授業中の様子を特に注意深く見守ること。 ・養護教諭が授業に立ち会い、生徒の様子を見て適宜フォローすることが可能であること。 ・授業後に生徒からの相談があった場合のフォローアップについて、養護教諭、スクールカウンセラー、管理職等で情報共有を行っておくこと。 	<p>2つ書かれていればよい。 問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>各 5 × 2</p>
	<p>2</p> <p>(1) 同じ話を聞かれて被害体験を思い出させられることは、トラウマ体験を深めることにつながり、被害生徒の話の内容や記憶が変化してしまう可能性もあるから。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の段階では「誰に何をされたか」を聞き取り、「あなたは悪くない」「あなたに落ち度も責任もない」と繰り返し伝える。 ・話を遮らず、丁寧に聞き取る。生徒が話す以上のことを聞き出そうとせず、生徒の使った表現や言葉をそのまま記録に残す。 ・性被害の詳細については無理に聞きすぎない。 ・聞き取りの際、「なぜ」「どうして」という圧力をかける言葉は避け、「どういうことで」に言い換える。例えば、「どうしてそこに行ったの？」ではなく、「どういうことがあってそこに行くことになったの？」と聞く。 ・聞き取る側が怒りや動揺を見せると、被害生徒はそれ以上話ができなくなってしまうため、感情的な対応にならないよう留意する。 	<p>内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。</p> <p>2つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。</p>	<p>4</p> <p>各 4 × 2</p>

26

養護採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
8	2 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・寝られない・食べられない等の身体症状や様々なトラウマ反応が現れることがあることは、自然な反応であることを伝え、不安をやわらげる。 ・必要に応じて、スクールカウンセラー等と連携して対応する。 ・生徒の様子を見守りつつ、生徒の心身の回復に向けて必要なことや保護者が望んでいることを理解するために、保護者と定期的に連絡を取る。 ・必要に応じて専門機関（警察、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、児童相談所等）と連携して対応する。 	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	4
9	1	① (イ)		各 2 × 3
		② (ア)		
9	2	③ (ウ)		各 3 × 6
		<ul style="list-style-type: none"> ・保健室で得られる情報（健康観察、保健室利用状況、健康相談結果、当該生徒の生活時間や家庭での食事状況などの心身の健康に関する調査結果など）を整理する。 ・学級担任や保護者から、友人関係や家庭の経済状況、教職員との関係、学習状況などの様々な情報を収集する。 ・収集・整理した情報を基に、専門性を生かしながら課題の背景について分析を行う。 ・校内委員会に参加し、疑問点等については必要に応じ発言し、確認する。 ・生徒の健康課題の背景について組織で把握する際、養護教諭の専門性を生かし、的確に意見を述べる。 ・分析した結果を校内委員会でわかりやすく報告する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・自傷行為への対応や日頃の関わり等、健康面の支援について専門性を生かし、具体的な手法や長期目標、短期目標等について助言する。 ・支援方針・支援方法を検討する際、必要に応じ、学級担任や校内委員会のまとめ役の教職員、学年主任等と協力する。 ・健康面の支援について、関係機関と連携した対応が必要な場合は、学校医やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと協力するなど、より生徒の実態に即した支援方針・支援方法が検討されるよう働きかける。 ・健康課題を抱える生徒の心身の状態を把握し、必要に応じ、健康相談や保健指導を行う。 ・保健室登校の場合は、養護教諭が中心となり、生徒の指導に当たることになるが、支援内容については、必ず、管理職、学年主任、学級担任、保護者と協議した上で決定し、組織的に支援する。 	それぞれ3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	24